

「障害者にも留学のチャンス！」

——アビリティーズ海外留学・奨学基金創設に共鳴——

人間だれもが望むのは健康であり長寿でしょう。それは五体満足が大前提になっています。もしそれが崩れたら・・・なんて考えたくはありませんが、絶対に自分に起こらないとは保障できません。事故であるいは病気で障害になったらどうするか。前途の人生をあきらめなければならぬのか？また生まれながらにして障害を持つ人は、学校もあきらめ、就職でも差別されたり、その前途は開かれないのでしょうか？

こうした社会的弱者に政治が光を当てていくことは当然として、社会が、健全な人が、その本質を理解し支えていくことも大切でしょう。一方で、国が面倒を見てくれるのは当たり前、健全者が自分たちをサポートしてくれて当たり前、といった甘えも一部の障害者に見られます。少し努力すれば働けるかもしれないのに・・・。



アビリティーズの綱領は訴えています。「わたしは平凡な人間でありたくない。非凡な人間としてできれば、“保障”よりも(働く)“チャンス”を選ぶこと・・・」——庇護され、保障された生き方よりも、常に挑戦する人生を、人間としての尊厳の道を歩むことを訴えています。

会長の伊東さんは、自身、ポリオ障害で右足が悪く、高校卒業時、ほとんどの会社が就職受験の機会すら与えてくれなかった。幸い、その中で理解ある会社で働けることになった氏は夕方から早稲田のキャンパスに通い向学の心を燃やしていました。

41年前、大学卒業と同時に「日本アビリティーズ協会」を設立、その理念を反映した企業として、障害ある6人で小規模なタイプオフセットの印刷会社を起業したのです。

不断の努力と新分野の開拓で会社は徐々に伸び、今「アビリティーズ・ケアネット」と社名も改め、福祉用具の開発や福祉施設を運営し、現在1000人を超す社員、そして超重度の障害のある人も働く会社として活動しています。特筆すべきは、こうした会社でありながら、企業利益をあげ会社も働いている障害者も税金を納め、株主にも配当していることです。また「旅はリハビリに一番」と障害者が海外旅行もできるような企画も組んできました。そして今回、アビリティーズ海外留学・奨学基金を創設したのです。

10月、東京のサントリーホールでその創設記念コンサートが開催されました。“愛と絆”をテーマの日・韓・中、三国の演奏家による舞台は満員で、温かくヒューマニティにあふれていました。自分も韓国からの留学生2人と交換教授を案内したところ、3人とも大変に感動していました。「何よりも趣旨がスバラシイ！」と。

「心身に障害のある人を世界で活躍するリーダーに育てたい」——なんとスケールの大きなヒューマニズムにあふれた事業でしょうか。すでにイギリス・オックスフォード大学の総長、副総長も来日して、留学の受け入れ提携の第一歩もできたといえます。



一方的な同情や慈善よりも、挑戦できるチャンスを提供すること **オックスフォード大学** の大切さ。「五体不満足」の著書で知られた乙武さんをはじめ、障害者でも健全者以上に第一線でがんばっている人もいます。大事なことは心の持ち方、生きる姿勢なのでしょう。

伊東会長とは実は大学時代、クラスが一緒にその挑戦の姿にはいつも刺激を受けてきました。理想と勇気あるところ道が開け、ハンデがあるほどに向上への意欲を燃やす。夢に向かって挑戦する身障者の皆さんからは、こちらが学び励まされることも多いのです。